

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0175700319), 法人名 (空知パブリックメンテナンス株式会社), 事業所名 (グループホーム まごころ 2号館), 所在地 (〒068-0115 岩見沢市栗沢町最上293-1), 自己評価作成日 (平成26年9月10日), 評価結果市町村受理日 (平成26年11月5日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは広々とした畑があり、利用者様にその時期の新鮮な野菜を食べて頂くこと、多くの野菜を作っています。(トマト・きゅうり・キャベツ・大根・ナス・かぼちゃ・いも・とうきび等々) 昨年は10周年を迎え、10周年を節目に日頃の利用者様との関わりを大事にし、職員一同一丸となって地域に根差した施設作りに、取り組む決意を新たにいたしました。また、毎月手書きの近況報告書・まごころ通信などを家族に送付したり、変わった事があると電話にて連絡する等、家族と密なる関係作りにも努めています。地域住民に対しては、まごころ通信などを配布して、行事に参加して頂いたり、地域の催し(新年会や観桜会)にも出席しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 1 row: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0175700319-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (社会福祉法人北海道社会福祉協議会), 所在地 (〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地), 訪問調査日 (平成26年10月10日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and their evaluation.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り後、居間に掲げてある「まごころの理念」を大きな声で読み上げ、職員間で意識付けし、理念に沿った支援を出来るよう努めている。又、日々のサービスに反映されているかどうか話し合っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新年会・花見等、町内の行事に参加しており、当ホームの行事(夏祭り等)にも参加を呼び掛け、出席して頂いている。又、保育園児の慰問や仮装盆踊り(職員)等への参加も試みている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や、実習生を受け入れている。又、町内会には「まごころ通信」を配布して、認知症への理解を深めて頂くよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(年6回)に、同じ敷地内のグループホームとの合同の運営推進委員会を開催しており、事業所の運営方針、現在、取り組んでいる事を報告し、質問や意見・要望を受け、サービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会に出席して頂き、事業所の実情や現在取り組んでいる事を報告し、情報の共有に努めながら、お互いに協力関係を築くよう心掛けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしないケアを理解すると共に実践しており、自由な暮らしが出来るように、見守りを強化している。入居者が外に出て行く時は、無理に引きとめず付き添い見守りしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止等の研修会には積極的に参加し、スタッフ会議で報告し周知徹底している。又、不適切なケアについては日頃から話し合い日勤で仕事をカバーし、夜勤等の一人勤務での負担を少なくしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加し、その内容を活用出来るよう話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者と家族側の立場になり、書面と口頭で解りやすく説明し、わからない事や不安に思う事等丁寧に聞き、安心して生活出来る事を、理解納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	まごころ通信・個別のお手紙で日頃の様子を報告し、来所された時には、気兼ねなくお話出来る良い関係づくりに努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や申し送りの中で、意見・要望を聞き、気づきやアイデアをどんどん取り入れ、ケアに生かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法に沿って労働条件を整えており、職員の勤務状況を把握し、ストレスを溜めこまないよう日頃より、コミュニケーションに心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に出来る限り参加出来るよう配慮している。又、全職員が共有出来るようスタッフ会議などで、研修内容を報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会に加入して勉強会・講演会に参加し、情報交換等行いながら、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談でこれまでの生活状況・本人が困っている事・要望等を聞き、安心して生活が出来る様に良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族と本人の状況・家族の不安・要望に耳を傾け、どのような支援を望んでいるのかを把握し、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と見学に来て頂き、他の入居者とのふれあいの場を作ったり、本人の状況・何を希望し・何を不安に思っているのかを聞き、出来る限りサービスに取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話の中から、人生の先輩としての意見を聞いたり、喜び・苦しみを共感し、その人らしいありのままの暮らし・生き方の実現に向け、共に支え合える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お便り等で生活の様子をお知らせし、来訪時にはその都度近況を伝え、家族からの意見等を伺い、情報の共有を図り、協力関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの知人・友人が訪問されたり、病院受診や買い物・散歩等で顔見知りの方と会ったりすると、楽しく会話がはずみ馴染みの関係が途切れない様に心掛けている。又、2か月に1度来る床屋さんとは昔から利用していた方も多く、その頃の話に花が咲いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が円滑にコミュニケーションが取れる席順にしたり、職員も食事やお茶の時間には一緒に席に着き、調整役となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移る時は、今までの生活が継続できるように情報を提供し、必要に応じて退所後も、家族の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、言葉や表情から一人ひとりの思いを受け止めて把握し、スタッフ間で共有して本人の意志や希望に沿えるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に、これまでの生活歴を聞いたり、今までケアに係わった方々(ケアマネ・市職員等)から話を聞いたり、フェースシート等で情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活のリズムを把握し、毎朝のバイタルチェックにより、その日の体調や心理状態を見極め、残存能力を生かして自信を持って出来る様に支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見や要望を取り入れ、入居者主体の暮らしを重視し、アセスメントを行い介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、4カ月に1度サービスの見直しを行っている。変化時は随時見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に1日の生活の流れやケアの実践、入居者の言葉・エピソードを記入し、それを職員間で共有してケアや介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、買物・病院受診送迎、入院時の支度等必要な支援を柔軟に対応している。又、訪問理容や内科・歯科往診等利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が安心して地域で生活出来るように、市職員・民生委員・警察・消防等協力して頂いている。又、近隣のボランティアの方々の余興(歌や踊り・太鼓など)を依頼し、楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する掛かり付け医に受診しているが、家族が対応出来ない時は職員が送迎し、結果を家族に報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常駐しているので、情報や気づきの中から常に相談し、指示を受けて適切な看護や病院受診に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書にて情報を医療機関に提出し、病院と連絡をとり、家族と情報交換を行い、回復状況等退院支援に結び付けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「重度化した場合における指針」(事業所が対応出来る最大の支援)を家族に説明し、了承してもらっており、重症化した場合はその都度説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員で急変に備えて話し合い、消防訓練や応急手当での講習等で対応出来るように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、いつでも見る事が出来る様居間に備えてある。又、年2回消防署の協力を得て避難訓練・避難経路の確保、消火器の使い方等を実践している。又、町内会にも協力を得られる様お願いしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い・視線を合わせた会話・声のトーン・利用者の誇り・プライバシーを損なわないように常に心掛け、職員間で話し合い対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何を望んでいるか？気持ちを表現し易い様に入居者のペースに合わせ、ゆっくりに対応する。意志表示が困難な方にはジェスチャーを交え、表情を読み取る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムに合わせ、その日の本人の体調や希望に沿った、その人らしい過ごし方に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服装、季節に合った服装、体調に合わせた服装と支援している。行事の時等は化粧をする等、おしゃれを楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力に合わせて、食事の準備や後片付け等行っている。職員は利用者と一緒に会話を楽しみながら、ゆったりと食事をしている。又、裏の畑で採れる新鮮な野菜も利用している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量を毎回チェックし、1日の必要量が確保されていない方にはその都度、好みに合わせた食べ物・飲み物・摂取しやすい物を提供し、栄養バランスに留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後、口腔ケアにスタッフが付き添い指導・見守り・介助して習慣づけている。又、食事前の口腔体操で嚥下機能低下・誤嚥性肺炎の予防に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声掛けを行い、トイレ誘導をしている。失禁する方も、日中は綿パンツにパット程度にしていって誘導介助している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、便秘がちの方には水分・乳製品等の補充をし、最終的には下剤・座薬を使用している。又、毎日便秘体操・散歩等取り入れ、便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日は決まっているが、一人ひとりゆっくりスタッフと会話しながら、時には歌を唄ったりして入浴を楽しんでいる。(個浴) シャワー浴は自由にできる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居間のソファ・居室のベット等、生活リズムに合わせて休息している。夜間安眠出来ない利用者に対しては、話を聞き安心感が得られるよう支援している。又、寝具の清潔・居室の温度に気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が薬の内容を把握出来るように、個別ファイルを作成し分包している。処方に変更になった時は申し送りに記入し通知している。服薬時は確認して本人に手渡し、飲み忘れがないかチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を知り、得意分野での役割を發揮出来るよう支援している。又、ボランティアによる演芸(歌・踊り・太鼓)やドライブ等できれいな景色を見て気分転換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に沿って買物やドライブ・外出に出かけ、季節の変化を実感して頂くために、花見や紅葉見学も行事のひとつとして実践している。遠出の場合はトイレ設備を確認し、歩行状態の悪い方も車椅子の対応で行けるか確認し、合わせて支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理出来る入居者はいないが、本人が買いたいと希望された時は一緒に出かけ、立て替えている。又、千円程度の金額で有れば所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ロビーに公衆電話を設置し、利用者の希望で自由に使用でき、電話の時は職員が取り次ぎ自由に話されている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂やロビーには、職員と利用者が共同で季節に合った手作りの物や写真等を飾り付け、家具の配置等も入居者が動きやすいよう、気持ち良く生活出来る様配慮している。又、玄関フードにはベンチが置かれ日光浴をしたり、前庭のビニールハウスでは焼き肉を楽しんだりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前には皆でくつろげるソファがあり、ホールには談話したり、一人で過ごせる椅子とテーブルが用意されていて、個々に合った時間を過ごす事が出来る。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や仏壇・家族の写真等が飾られていて、本人の気持ちが落ち着き、居心地良く暮らせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、廊下・居間・トイレ・浴室など手摺が付いている。又、居室のドアにはネームや写真を貼り、入居者の現状に合わせた環境整備に努めている。		